

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	クルーズ長府		公表日 令和8年2月28日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	✓		十分なスペースを提供できるよう、日々の環境整理や定期的な構造化の見直しを行っています。	定期的に構造化の見直しを行い、利用者のニーズや活動しやすい環境を整える。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	✓		国の基準人員配置以上の職員配置を行っています。	必要に応じて、柔軟な配置を行う。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	✓		段差や階段は安全面の確認や点検を行い、利用者に応じた対応や見守りを行っています。	生活空間を分かりやすく構造化し、安全で快適に過ごせる環境整備に取り組む。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓		スペースごとに空間を分け、必要に応じてパーテーションも使用している。教具・機の消毒、換気、掃除を徹底し、教具や玩具のチェック(破損)を行い子どもに合わせレイアウトしています。	清潔保持や快適な環境づくり、清掃や整理整頓の徹底に加え、活動に応じた空間の使い分けや配置の見直しを行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓		スタッフ間で相談しながら状況に応じて個室やパーテーションを使用しています。必要に応じて、子どもが落ち着いて過ごせる場所・休憩できる部屋を設けています。	空間の使い方や時間帯の調整を工夫し、こどもが安心して落ち着ける個別スペースを必要に応じて確保できる環境づくりを行う。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	✓		職員会議等で共有、意見交換や振り返りを行い、目標達成に向けて改善策を検討する取り組みを行っています。	職員からの意見を仕組みを強化し、改善に向けて取り組む。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		保護者からの自己評価のご意見を参考に職員に周知し、議論を重ね新たな業務改善につなげています。	意見を共有・検討する場をより明確にし、改善内容や対応結果を職員間で共有することで、業務の質の向上につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		職員会議・事業所内研修・日々のミーティング等での意見を踏まえ、業務改善に向けて最善を尽くしています。	共有後の検討や対応結果が分かりにくい場合があるため、意見の整理や対応状況を明確にし、職員間で共有する仕組みを整えていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		✓	第三者による外部評価は行っていません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	✓		毎月の事業所内研修や外部研修等を定期的に行い支援の質の向上を図っています。	内部研修や外部研修を増やし、質の向上、職員のスキルアップを図る。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓		事業所のHPにて随時更新し、掲載しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	✓		定期的なモニタリングを通して、個々のこどもの発達状況や特性、こども本人・保護者のニーズを把握し、職員間で共有・検討した上で、客観的な視点を踏まえた放課後等デイサービス計画を作成している。	情報の整理や客観的な分析の視点について、定期的に支援計画の見直しを行う。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓		支援に関わる職員間で情報共有を行い、共通理解の下で検討しているが、今後はさらに検討の場を充実させていきたい。	職員間での意見共有や検討の機会を増やし、共通理解のもと、こどもの最善の利益を考えた支援計画作成につなげていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓		支援会議や記録の共有等を通して職員間で周知し、こどもの状況を踏まえながら、計画に基づいた支援の実施に努めている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓		日々の活動や関わりの中で子どものニーズに沿って、必要なツールを用いて、一人ひとりに合った支援につなげています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓		ガイドラインに即した支援内容を個別計画書に設定しています。	内部研修等でガイドラインの読み合わせなどを定期的に行い、支援内容を見直す。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓		チーム全体で日々情報を共有し、話し合いを重ねて活動プログラムを立案しています。	職員間で活動プログラムについて共通認識をし、取り組む機会を増やす。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		日々、職員間で話し合い利用者の発達や状況に応じた活動や課題を固定化しないよう取り組んでいます。	こどもの興味や成長に応じて活動内容を見直し、活動プログラムが固定化しないよう工夫を継続していく。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	✓		月1回の職員会議で個別活動・集団活動の計画を設定し、子どもの状況や環境に合わせて必要な課題等、最適な支援を心掛けています。	最適な支援が行えるよう、個々に合わせて柔軟な取り組みを行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓		日々のミーティングで個々に合わせた支援の共通認識を図り、チームで連携しながら支援に取り組んでいます。	職員間での連携を強化し、必要に応じては役割分担等の体制を整える。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	✓		日々の振り返りを行い、支援の中で気付いた点を共有し、今後の支援に活かせるよう、チームで連携して取り組んでいます。	職員間で振り返りでの気付きや意見など話し合い、次の支援に活かしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓		個別記録をもとに支援の振り返りを行い、よりよい支援につなげられるよう、日々の活動記録にAIを有効活用しています。	日々の支援記録を確実にし、内容を振り返ることで支援の検証と改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓		定期的に保護者との面談を行っています。必要に応じて、見直しを行い保護者との情報共有を行っています。	定期的なモニタリングの実施を徹底し、必要に応じて計画の見直しを適切に行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	✓		「4つの基本活動」を意識し、複数の活動を組み合わせながら定期的に確認し、発達段階に応じて、バランスのとれた支援となるよう工夫しています。	ガイドラインの定期的な見直しをし、支援を行う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促す力を育てるための支援を行っているか。	✓		モンテッソーリ教育の基本理念の確認を定期的に行い、支援ツールを活用し、主体的に活動に取り組める工夫や環境を整えています。	こどもが自己選択・自己決定できる場面を増やし、主体性を育てる支援の工夫を進めていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓		積極的に会議に参加し、関係機関と連携を図っています。また、参加して出た意見などは、職員間で共有しています。	必要な職員が参加できるようにしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓		必要な状況に応じて、関係機関との連携が図れるような体制を整えています。	関係機関との情報共有や連携の機会を増やし、より円滑な支援体制の構築を進めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	✓		下校時刻の確認など、必要な情報交換を行っています。また、送迎時の対応やトラブルが発生した際には、速やかに連絡・調整を行い、安心してご利用いただけるよう努めています。	関係機関との連携を強化し、職員間で情報を共有する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	✓		相談員さんを通して情報共有して相互に連絡を取り合うよう意識して行っています。	就学前に利用していた関係機関との情報共有をより丁寧に行い、相互理解を深めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	✓		移行支援会議に参加をして、子どもの様子や支援内容など情報提供に努めています。	移行先事業所との情報提供や引き継ぎを丁寧に行い、切れ目のない支援につなげていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	✓		関係機関との情報共有など、連携を図っています。	連携を図り、必要に応じては研修等を行う。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	✓		他事業所のイベントに積極的に参加し、地域交流をする機会を図っています。	地域の行事など積極的に交流活動に参加していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	✓		積極的に参加しています。	今後も継続的に参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		送迎時対応で日々の支援やご家庭での様子を共有し、発達の状況や課題について共通理解を持ち、連携しながら支援に取り組んでいます。	送迎時等で活動の様子を伝え、共通理解できるように心掛ける。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓		家族の対応力の向上を図ることを大切に考え、職員全体で内容を議論し、保護者が安心して子育てや関わりに取り組めるよう、学びの機会や情報提供の充実を努めています。	保護者交流や個別面談、研修等の実施し、保護者が参加しやすい機会づくりを進めていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓		契約時に説明をさせて頂いています。	契約時の説明と共に保護者からの質問等に丁寧に答えていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓		送迎時や電話等での保護者からのご要望等は、職員会議等で議論する機会を設けています。	職員間で議論を重ねる機会を増やすし、共通理解を図ることで、支援の一貫性を高める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	✓		面談等で計画書の内容を確認し、同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		ご相談を頂いた際には、面談や日々のやり取りを通して丁寧に話を伺い、子どもの特性や家庭の状況に応じた助言や支援を行っています。	相談窓口を設け、相談内容や緊急性に応じて、面談や助言を速やかに行える体制を明確にする。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	✓		子育てサポート講座と題して、家族交流(兄妹児)での「親子で楽しむレクリエーション講座」を開催しました。今後も開催日程を調整して開催する予定となっております。	定期的に開催する機会を増やし、保護者同士で交流する場の提供をする。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		苦情やご意見に適切に対応できるよう、相談・苦情対応の体制を整備しています。苦情や相談があった際には、事実確認を行ったうえで迅速かつ誠実に対応し、再発防止や支援の質の向上につなげています。	面談の場を設けるなど、迅速かつ適切な対応ができるよう心掛ける。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	✓		HP等で掲載していますが、必要に応じて手紙を配布、また送迎時に口頭でお伝えするようにしています。	今後もSNSやHPで定期的に情報を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓		個人情報の重要性を十分に認識し、適切な管理と取扱いを徹底しています。個人情報保護に関するルールを職員間で共有し、研修や日々の業務を通して意識の向上を図っています。	個人情報の取扱いを強化し、職員に十分気を付けるよう周知していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		円滑な意思の疎通や情報伝達を大切に、一人ひとりの特性や理解の状況に応じた配慮を行っています。言葉だけでなく、視覚的な支援や安心して気持ちや意見を伝えられる環境づくりに努めています。	保護者との意思疎通や情報伝達に今以上配慮していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	✓		地域の方に来て頂き、絵本の読み聞かせやプログラミング教室など、こども達と触れ合う時間を設けています。	定期的な交流や協力の機会を設け、地域ネットワークを継続的に活用する。
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		訓練や確認を定期的の実施し、職員が適切に対応できるよう備えています。また、保護者にも必要な情報を分かりやすく伝えるよう努めています。
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を実施し、安全意識の向上を図っています。	非常災害に備え、避難場所の確認や訓練の強化をする。
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	✓		面談等で服薬やてんかん発作等の確認を行い、職員間で情報共有を図っています。	確認した情報を職員間で共有し、緊急時や日常の対応に反映できるよう仕組みを改善する。
49		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓		医師指示書等(保護者聞き取り)に基づき、誤食防止のための確認を行っている。	代替食・誤食時対応の訓練、表示方法の統一など、ヒューマンエラー対策を強化する。
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓		安全計画を作成し、事故防止や緊急時対応等の安全管理に必要な研修や訓練を実施しています。	定期的な見直し、外出先等のチェックリストなどで安全確認を行う。
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓		日々の連絡や面談等を通して情報共有を行い、家庭と連携しながら安全に配慮した支援が行えるよう努めています。	定期的な安全確認を行い、家族等に周知し安全計画の実効性を高める。
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた検討を行っているか。	✓		ヒヤリ・ハット事例を職員間で共有し、再発防止に向けた検討を行っています。日々の支援の中で気づいた点を記録・共有し、原因の確認や対応策の見直しを行うことで、安全管理の向上につなげています。	発防止策や対応マニュアルの改善に反映できる仕組みを強化する。
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		定期的な研修を行い、虐待防止に対する理解と意識の向上を図るとともに、早期発見・未然防止に努めています。	職員全員が虐待防止に関する知識・対応力を定期的に更新できる研修機会を計画的に確保する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	✓		身体拘束のない支援ができるよう、職員間で質の高い支援を心掛けています。	定期的な研修を行い、身体拘束のない支援をしていく。	